

山梨の未来を担う人材育成検討委員会 提言の方向性（案）

AI、IoTなどICTの技術革新、グローバル化の進展、人口減少・少子高齢化の進行などによりもたらされる環境の変化は、今後さらに急速に進んでいくと予想されることから、こうした社会環境の大きな変化に対応し、本県の産業を成長・発展させる人材を育成することが重要である。

○県の人材育成機関の方向性

1. 現場の即戦力となる「実践的職業人材の育成を継続」（継続する部分）

- ・必要な知識・技術・技能を修得させ、県内企業に就職させる教育の継続が必要
- ・県内に人材を輩出する役割に対し、業界の評価は高く、今後への期待も高い
- ・先端技術に代え難い職人の技術・技能の継承を目的とした取り組みの継続が必要
- ・少ない経済的負担で就職につながる技術を身につけられる仕組みの継続が必要

2. 地域課題を解決し、新たな価値を創造する「高度な職業人材の育成」（上に伸ばす部分）

- ・高校生からの「高度な学び」を望む声や、業界からの「高度な技術」を求める声に対応することが必要
- ・特に、機械・電子、情報、農業の分野において高度な職業人材の育成が必要
- ・生産性向上に資する「課題解決型の教育」や「起業家の育成」の重要性が高まっている
- ・専門職大学など、業界を牽引するより高度な技術者を育成する仕組みの検討が必要

3. 様々な形により体系的なキャリアアップを支える「社会人教育の充実」（上に伸ばす部分）

- ・在学期間だけでなく、卒業後もフォローして一流の匠を育てる仕組みの検討が必要
- ・生涯一つの技術で生きていける時代ではないので、山梨に社会人が学ぶ場が必要
- ・未来に向かい今を支えるためには、多様な年代のスキルアップが必要

4. 急速な社会変化に対応できる「幅広い基礎力を備えた人材の育成」（横に広げる部分）

- ・幅広い経験を積み、人間力を高めることが必要
- ・急速に進むAI、IoTなどICTの技術革新に対応する仕組みの検討が必要
- ・外国の文化や語学に慣れるなど、国際対応力を強化する仕組みの検討が必要
- ・新しい価値を生み出していくためには、異分野との連携・融合が重要
- ・生産性向上のため、6次産業化など多様な形で付加価値の向上を図ることが必要

5. 山梨に人を集め、山梨を発展させる、魅力的な教育環境「山梨モデルの実現」（人を集める部分）

- ・幼児期、就学期、成年期といった縦軸と、国公私、学校種、地域といった横軸を踏まえる中で、人材育成を考えることが必要
- ・性別、年齢、県内外、海外を問わず、様々な学生が集まり、県内への就職に繋がるよう、山梨だからこそできる独自性のある仕組みの検討が必要

○各人材育成機関の方向性

産業技術短期大学校

（生産技術科・電子技術科）

- ・現状の育成に対し、今後も期待が高いため「実践的職業人材の育成の継続」が必要
- ・直近5年間の定員充足率が5割を下回る学科もあり、高校生ニーズ等を踏まえ、県外転出を抑制するための受け皿となるような再編等の検討も必要
- ・人手不足と技術革新に対応するため、生産性向上を牽引する人材に対するニーズもあることから、「高度な職業人材の育成」、「幅広い基礎力を備えた人材の育成」も踏まえた再編等の検討も必要

（情報技術科）

- ・現状、学生確保は十分だが、依然としてIT人材は不足していることから、高校生ニーズ等を踏まえ、より多くの人材を育成できるような方法の検討が必要
- ・業界には、単純なプログラミング能力に留まらない、より高度な人材に対するニーズが高いことから、「高度な職業人材の育成」、「幅広い基礎力を備えた人材の育成」を踏まえた再編等の検討も必要

（観光ビジネス科）

- ・観光業界の現場は、人手不足の状態であり、現状の接客サービスを中心とした「実践的職業人材の育成の継続」が必要
- ・外国人観光客が増加する中、「国際対応力」を強化する取り組みの検討が必要
- ・都留キャンパスへの設置については、業界ニーズや高校生ニーズを踏まえ、慎重に検討を進めることが必要

峡南高等技術専門校

（自動車整備科）

- ・若手の整備士の不足が重大な課題となっており、2級自動車整備士の養成機関として「実践的職業人材の育成の継続」が必要
- ・電子技術の重要性が高まっており、「ICT教育」への対応も必要

（電気システム科）

- ・電気工事士が不足しており、第2種電気工事士の養成機関として「実践的職業人材の育成の継続」が必要
- ・直近5年間の定員充足率が5割を下回っており、高校生以外の入学者を増やすことについても検討が必要

宝石美術専門学校

- ・県内に人材を輩出してきた役割が高く評価されており、今後も先端技術に代え難い職人の技術・技能の継承も含め「実践的職業人材の育成」を継続することが必要
- ・就職後の技術向上を支援するため、在職者を対象とした高度技術専門コースの充実の検討が必要

専門学校農業大学校

- ・現状の人材育成に対し、JA等の業界団体や高校生からの期待が高いため、今後も「実践的職業人材の育成の継続」が必要
- ・一方で、質の高い農産物の生産に加え高付加価値化や販路拡大まで行う6次産業化など、新たに農業界を牽引する人材に対するニーズもあることから、「高度な職業人材の育成」、「幅広い基礎力を備えた人材の育成」も踏まえた再編等の検討も必要

山梨の未来を担う人材育成検討委員会における意見の整理（案）【継続する部分】

検討委員会、ワーキンググループにおける委員意見等（○…委員意見、●…データ）			意見のまとめ
現状	評価・課題	方向性	
<p>【全体関連】 ○現状、各機関は全ての学生に対し、必要な知識・技術・技能を習得させ、就職させる人材育成を行っている</p> <p>【産短大(生産技術科・電子技術科)】 ●定員充足率が低い ●就職率、県内就職率ともにほぼ100% ●求人倍率は10倍以上で、都留は20倍を超える ○都留キャンパスは工業系高校からの進学が多い</p> <p>【産短大(情報技術科)】 ●定員充足率は100% ●就職率はほぼ100%、県内就職率が7割程度、関連就職率は8割弱 ●求人倍率は約7倍</p> <p>【産短大(観光ビジネス科)】 ●定員充足率は100%を超える ●就職率はほぼ100%、県内就職率、関連就職率ともに8割弱 ●求人倍率は約4倍（富士・東部地域では増加）</p> <p>【峡南技専(自動車整備科)】 ●定員充足率はほぼ100% ●就職率は100%、県内就職率は9割弱</p> <p>【峡南技専(電気システム科)】 ●定員充足率は5割未満で、そのうち1割以上が職歴等のある求職者 ●就職率は100%、県内就職率もほぼ100%</p> <p>【宝石美術専門学校】 ●定員充足率はほぼ100%、県内出身者は6割程度 ●就職率はほぼ100%、県内就職率は6割程度 ●求人倍率は約2倍 ●新卒、既卒、県内外、国外から多様な学生を受け入れている</p> <p>【農業大学校】 ●定員充足率はほぼ100% ●就職率、県内就職率ともにほぼ100% ●求人倍率は約19倍</p>	<p>【全体関連】 ○各機関では、現状の人材育成により成果を出している ○就職のための技術を身につける仕組みは現状の人材育成で十分 ○各分野の専門家を育成することは非常に大切 ○全ての学生の手につけ就職させる役割も必要 ○県内就職率が高い学科こそが支えることが必要 ○学費の面で公立というのは魅力</p> <p>【産短大(生産技術科・電子技術科)】 ○高校卒に比べて定着率が高い ○企業にとって卒業生が即戦力になるところが魅力 ●高校生ニーズでは、2年制への希望もあるが、大学進学か就職の希望がほとんど</p> <p>【産短大(情報技術科)】 ○4年制卒と2年制卒では、人間力、人間の幅、会話の力、ポイントを掴む力が違う ○情報業界が必要とする人材を育成するのに2年課程では短い ●県内には類似の2年制進学先が複数ある ●高校生ニーズでは4年制への希望が多い</p> <p>【産短大(観光ビジネス科)】 ○旅行業で山梨県に就職するのは現実的に難しい ○都留キャンパスへの設置を検討してはどうか ●中西部地域では2年制への希望が多いが、富士・東部地域では4年制への希望が多い ○観光業の現場は人手不足</p> <p>【峡南技専(自動車整備科)】 ○若手の整備士が不足している ○中小の整備工場では人材確保が特に困難</p> <p>【峡南技専(電気システム科)】 ○電気工事士が不足している ○電気工事は資格がないと仕事ができない ○大卒はあまり電気工事業界に就職しない ●高校生の電気関係希望者のうち、峡南技専への進学希望者はほとんどいない</p> <p>【宝石美術専門学校】 ○ジュエリー業界でも、ものをつくる人が減少 ○業界に人材を輩出してきた宝石美術専門学校の役割は大きい ○アナログ商品は温もりや人間の心が伝わるので、先端技術に代え難い手作りの良さがある ○世界が認める職人から直接学べる学校は他にない</p> <p>【農業大学校】 ○農業は担い手や後継者の問題が一番大きい、担い手育成の中心的役割を果たす教育機関として評価する ○就職後に役立つ勉強や資格取得をさせている ●農業関係を希望し、2年制への進学希望者は定員数とほぼ同じ ○果樹関係の職人的な技術は地域の財産として維持しなければならない ○農業大学校は農業法人に就職できる重要な進路</p>	<p>【全体関連】 ○徹底的に基礎的な知識を身につけてほしい ○県立学校や山梨の産業が活性化することで、その分野に進みたいと考える高校生が増えることは良い ○普通高校の生徒が実学を学び就職する進路として必要 ○比較的早い段階で働きたい学生の進路として必要 ○4校の経済的優位性は継続してもらいたい</p> <p>【産短大(生産技術科・電子技術科)】 ○現状行っている産短大(機械・電子)の育成は今後も必要 ○現状の学科への高校生ニーズが低く再編が必要</p> <p>【産短大(情報技術科)】 ○人材が非常に不足しているので業界に進む学生が増えるよう検討を進めてもらいたい</p> <p>【産短大(観光ビジネス科)】 ○観光業で基本となるのは語学 ○観光業では高い専門技術はそれほど必要なく、感性を育てるために様々な体験、経験をすることの方が大事 ○都留キャンパスへの設置については、現状の高校生ニーズを考えると慎重な対応が必要</p> <p>【峡南技専(自動車整備科)】 ○整備士資格の取得を希望する者への実務に繋がる人材育成を期待する ○2級整備士資格を取得できる機関であることが一番重要</p> <p>【峡南技専(電気システム科)】 ○より多くの学生を集め、電気工事士資格を取得して電気工事業界に就職する者を増やしてほしい ○現状の学科への高校生ニーズが低く再編が必要</p> <p>【宝石美術専門学校】 ○「レジェンド」と呼ばれる高度な技術を持った職人を活用した授業を取り入れることが望ましい ○県内の高度な技術者を教育に活かしていくというのは非常に素晴らしい取り組み</p> <p>【農業大学校】 ○就職後の即戦力となるよう、産地の特徴などに精通し、地域の実情を把握している農業技術者の輩出に期待する ○専門的過ぎず、基礎的なことを学んだ人材を育成してもらいたい</p>	<p>【全体関連】 ☆技術を習得して就職することを目指す現状の人材育成に対する産業界からの評価、ニーズは高く、今後もこの役割を担うことが必要</p> <p>【産短大(生産技術科・電子技術科)】 ☆業界ニーズや早い段階で働くことを希望する学生ニーズも踏まえ、現状の人材育成の継続は必要 ☆学生確保が不十分であり、高校生ニーズ等を踏まえた再編を検討することが必要</p> <p>【産短大(情報技術科)】 ☆現状、学生確保は十分だが、依然としてIT人材は不足しており、より多くの人材を育成できるよう、高校生ニーズ等を踏まえた検討が必要</p> <p>【産短大(観光ビジネス科)】 ☆現状の接客サービスを中心とした現場の即戦力の育成は継続が必要 ☆都留キャンパスへの設置については、業界ニーズや高校生ニーズを踏まえた検討が必要</p> <p>【峡南技専(自動車整備科)】 ☆資格養成機関として、引き続き、県内に実践的な有資格者の供給が必要</p> <p>【峡南技専(電気システム科)】 ☆資格養成機関として、引き続き、県内に実践的な有資格者の供給が必要 ☆高校生ニーズが極端に低いことから、高校生以外の入学者を増やすことについても検討が必要</p> <p>【宝石美術専門学校】 ☆先端技術に代え難い、職人の技術・技能の継承を目的とした取り組みの継続が必要 ☆全ての学生に手に職を付け、就職することを目指す役割が必要</p> <p>【農業大学校】 ☆企業から期待される役割、高校生のキャリア形成上の役割ともに明確 ☆業界ニーズ、学生ニーズがマッチした理想の状態であり、現状の人材育成の継続が必要 ☆農業の実践を踏まえた基礎を学ぶことは今後も重要</p>

山梨の未来を担う人材育成検討委員会における意見の整理（案）【上に伸ばす部分】

検討委員会、ワーキンググループにおける委員意見等（○…委員意見、●…データ）			意見のまとめ
現状	評価・課題	方向性	
<p>【高度なレベルの教育】 ○既に、中身の濃い教育内容となっており、現状の修学期間の中で、これ以上追加的な教育は難しい ○山梨では工業系の人材が不足している ○情報通信業界では、求められる能力はサービスの提案力と、より特化した専門性に二極化 ○近い将来、産業を支える高度技術者が不足する</p> <p>【課題解決・起業家育成】 ○これからは新しいものを切り拓く人材が必要 ○社会的課題に対しソリューションを提供する能力が求められている</p> <p>【職業実践力の強化】 ○現場のリアリティあるカリキュラムが必要 ○通常の大学は研究という使命があるため、実践的な教育という面で課題がある ○長期間の企業実習等の特徴とする、実践的な職業教育を行う新たな大学制度が創設された ○実際に現場で活躍する人を教員として採用できれば、従来の大学、短大にない新しい教育を実現できる</p> <p>【リカレント教育】 ○人生100年時代構想会議において、高等教育の無償化やリカレント教育が議論されている ○キャリアアップのために学ぶ場が、山梨には少ない ○専門職大学には今までの大学にはない、仕事や実務の経験が単位化されるという特徴がある</p>	<p>【高度なレベルの教育】 ○育成する人材は、技術を高めて就職する学生と、技術を活かして新価値の創造を目指す学生の2つのタイプが存在するが、現状育成している前者に加えて、後者も育成していく必要がある ○機械電子業界では、開発や製造で取引先と話をする人材が高いレベル（レベル人材）に達していないと産業が拡大しない ○時代の変化に対応してカリキュラムの更新が必要 ○高度な学びを望む者への受け皿を県で用意してほしい ○人をまとめる、プロジェクトを進めるという点で大卒がほしい ○大卒は物事に取りかかる姿勢や客観的に評価する力が優れているので、そうした人材も育成してほしい ○専門職大学は偏差値教育から脱皮した望ましい教育</p> <p>【課題解決・起業家育成】 ○学んだ技術をどう使うか考えることが大事 ○課題解決型の教育をどう取り入れていくかがポイント ○新しい事業に取り組む起業家をサポートする体制も大事 ○アクティブラーニング（能動的学修）など学びの手法の工夫も必要</p> <p>【職業実践力の強化】 ○知識として身についたものを社会に出てどう活かすか経験する機会を意識的に作るべき ○各機関に産業界と連携できる組織が必要 ○実際に仕事をしている優れた技術を持つ人から学ぶのは良い</p> <p>【リカレント教育】 ○就職後もスキルアップできる環境の整備が大事 ○生涯一つの技術で生きていける時代ではない ○30代、40代、50代がスキルアップする機会についても検討が必要 ○一生学び続けるにあたって、同じことの繰り返しより、新しいことを学ぶことが必要 ○新しい道（分野、職種）に向かっていく形があっても良い ○一流を育てるには1万時間を費やすという考え方があり（1万時間の法則） ○山梨の未来を担う人材としては、30代、40代、50代さらには60代も未来を担うために今を支えるという意味で大切 ○実際に就職して一人前になるまで5～6年かかるため、その間のバックアップの仕組みが必要 ○高等教育機関（大学等）と企業（会社）との接続（大社接続）についてもっと考えることが必要</p>	<p>【高度なレベルの教育】 ○自治体として高度技術者を養成することが必要 ○教育内容を追加するには修学期間の延長が必要 ○4機関の中で上に進みたい人だけを選んで、束ねた形で組織すれば、無理のない形でより高度な人材育成を実現できる ○高度な職業教育を実施するならば、一般的な大学より、実践的な教育を重視する専門職大学という形が良い ○2年学んだ上で、さらに学びたい学生がもっと学べる形があれば、農業を学ぶ人は増える ○単純なプログラミング能力の需要はない ○情報分野については、カリキュラムを少し変えて、より高度な技術を身につけてもらいたい</p> <p>【課題解決・起業家育成】 ○身につけた技術で課題を解決する能力の育成は、現状とは別の課程として実施した方が無理がない ○起業家を育てるコースを作ってはどうか ○具体的な課題に取り組み、良いアイデアには予算をつけて実現を支援すると、起業家育成に繋がる ○問題発見や課題解決能力のレベルを上げ、自律自走できる人材を育成してもらいたい</p> <p>【職業実践力の強化】 ○授業半分を教員が講義し、残りで企業の実務家が現場での実際の使われ方を講義する形も良い ○農家の実験圃場的な形で、地域農業者との技術的交流など、地域に根ざした形で勉強できると良い ○現在も行われている農家や農業法人での実習は、例えばドイツのマイスター制度を参考にすることで一層のスキルアップが期待され、実践に強い担い手が育成でき儲かる農業へとつながる ○今後も、地元企業との緊密な繋がりを大事に育ててほしい</p> <p>【リカレント教育】 ○女性など、やりたいという意欲のある人を受け入れて1年程度学ぶ場を提供してもらいたい ○社会に出てからの方が人生は長いので、社会人教育に初級、中級、上級などの体系が必要 ○4年プラス4年という構想で、在学期間だけでなく、卒業後の4年も県がフォローして一流の匠を育てるという仕組みも良い ○宝石美術専門学校の就職後の技術向上を図る高度技術専門コースについて、他業種の者も対象にした講座の導入など、充実を図る必要がある ○農業大学校においては卒業後にIoTなどの最前線の技術をフォローできる体制があれば良い ○大企業が実施する新人教育のような内容を、中小企業でも受けられるような仕組みの検討が必要 ○多様な年代や求める能力の多様化に対応が必要 ○子育てで時間制約のある女性へ配慮した学び直しの機会の充実も必要</p>	<p>【高度なレベルの教育】 ☆将来の産業（特に、機械・電子、情報、農業の分野）を支えるためには、新たな価値の創造を目指す高度技術者の育成が必要であり、専門職大学など、高度な職業教育を希望する高校生が選択できる進路の整備も必要</p> <p>【課題解決・起業家育成】 ☆これからの時代は社会的課題に対し解決策を提供していく能力が求められることから、課題解決型の教育や起業家を育成する教育について検討が必要</p> <p>【職業実践力の強化】 ☆現場で活躍する人材による授業や、実践的な企業等実習など、地域に根ざした学習を導入するため、産業界と連携した人材育成が必要</p> <p>【リカレント教育】 ☆生涯一つの技術で生きていける時代ではないが、山梨にはキャリアアップのために学ぶ場が少ないことから、キャリアアップの体系を整備するなど社会人教育について強化する取り組みが必要 ☆様々な人が、様々な場所で、様々な形態で学ぶことができる取り組みが必要</p>

山梨の未来を担う人材育成検討委員会における意見の整理（案）【横に広げる部分】

検討委員会、ワーキンググループにおける委員意見等（○…委員意見、●…データ）			意見のまとめ
現状	評価・課題	方向性	
<p>【人間力・対応力】 ○研究を行う上で、最終的には人間力が重要 ○現在、技術者は高度な専門性と共に、様々な分野の基礎力も求められるようになっている ○自分で目標を立て、そこに近づくための方法を考えることで、創意工夫が生まれる</p> <p>【ICTへの対応】 ○機械電子業界で、IoTは実用的な対応力を高める段階 ○情報通信業界をはじめとする情報分野では人材が非常に不足している ○観光業界においてもIT化が進んでいる ○自動車業界では、電子技術の強化が重要 ○農業界でIoTへの対応は農業法人が中心</p> <p>【海外展開、外国人の受け入れ対応】 ○機械電子業界では外国人の採用意欲がある ○おもてなしの基本となるのは語学 ○宿泊業界が求めるものは語学が大半を占める ○ジュエリー業界は海外取引も進んでいる ○企業には、外国人に仕事を教える仕組みの構築に課題がある</p> <p>【異分野連携・融合】 ○最近では高校でも多面的・多角的に学ぶ時間を増やしている ○これからは知恵を出し合い課題解決を導く時代 ○社内では、専門的知識よりもチームとしてやっていく能力の教育に力を入れている ○今後の高等教育においては、多様な学修者や多様な学修内容に対応しながら、教育の質を担保すること（質的多様性）が重視される</p> <p>【新領域進出】 ○ジュエリー業界では、海外展示会出展なども増え、営業人材の需要が増加 ○JAグループやまなしでは、システムを一元化するなど、販売力強化を進めている ○道の駅などで加工品を販売したり、農家レストランを開設するなど、6次産業化に取り組む農業者が増えている</p>	<p>【人間力・対応力】 ○自分の強みを発見し、自分のアイデンティティとして認識できるまで向上させることが必要 ○様々な分野の勉強が人間力形成に重要 ○自分の専門以外はその人にとって教養になる ○命を支える産業である農業では感性が育つため、単位の互換も含め、他機関の学生にも農業大学校で農業を学んでもらいたい</p> <p>【ICTへの対応】 ○観光業界でもIT化に対応できる若い人材の需要がある ○自動車整備士は整備資格に加え、新技術に対応できる力が必要 ○IoTはアイデアさえあれば対応できる ○情報技術は特殊能力と思われがちだが、1年程度学べば必ず戦力になる ○今の子ども達はICTにすぐに対応できる</p> <p>【海外展開、外国人の受け入れ対応】 ○英会話力が不足している ○文化と英語に慣れるようにすることは大事 ○海外の考え方を知らないとは適切に外国人への応対ができない ○地域のことを知らないと外部に発信できない ○今後のマーケットの広がりを考えるとタイ語や中国語も重要</p> <p>【異分野連携・融合】 ○これからは、論理的に説明し、説得する力、納得解を導く力が大事 ○対人関係の形成能力、コミュニケーション能力、感性というものこそ人間の強み ○違う専門の人間が共働しながら、新しい価値を生み出していく人材育成が求められている ○チーム力というのは非常に大切 ○機械電子業界では、様々な分野の連携が一つの鍵</p> <p>【新領域進出】 ○ジュエリー業界では語学力を持った営業人材の採用が進まない ○農業生産とともにマーケティングを担う人材も必要</p>	<p>【人間力・対応力】 ○人間力や対応力は全ての機関のカリキュラムに共通して必要 ○自分で勉強し対応していく力を養う視点も必要 ○1年ぐらい語学、プログラミング、歴史など、人間性、基礎力を高める教育が必要 ○教養部分の教育は他機関と連携して実施することも良い ○自分で目標を立て、目標に向かって何をしたら良いのか考える仕組みの導入も人間力形成には有効 ○他の機関との連携強化や単位互換により、しなやかな人間力を磨くカリキュラムの充実が必要 ○企業で働くという心構えの形成を具体的なカリキュラムとして取り入れてもらいたい</p> <p>【ICTへの対応】 ○IoTなど、急速な時代の流れに対応していくことは必要</p> <p>【海外展開、外国人の受け入れ対応】 ○実践的な英会話のカリキュラムが必要 ○留学生を受け入れることが刺激になり、グローバル人材を育成する環境となる ○留学生受け入れのための体制整備が必要 ○地域資源の強みや弱みを理解し、何が魅力になるのかという感性を磨くことも大事 ○海外の方や留学生との交流する場の検討が必要</p> <p>【異分野連携・融合】 ○各機関を連携させて、チームで課題に取り組んでいくカリキュラムがあっても良い（卒業研究なら可能ではないか） ○他業種との学びはジュエリー業界にも良い ○質的多様性の実現のためには、それぞれの機関の強みを活かした連携が重要 ○大学等との連携も、もっと活発にしていくことが必要</p> <p>【新領域進出】 ○農業大学校では、加工の基礎とか、販売するところまで踏み込んでカリキュラムを組んでみてはどうか ○農業大学校では、栄養士などの国家資格が取れると良い ○6次産業化や女性活躍をフォローアップしていくカリキュラムの充実と施設整備が必要</p>	<p>【人間力・対応力】 ☆専門分野に加えて、他の分野の教養を身につけることができる仕組みを整備することで、幅広い経験を積み、高い人間力や対応力の形成を図ることが必要</p> <p>【ICTへの対応】 ☆急速に進むAI・IoTなど、ICTの技術革新に対応していくことが必要</p> <p>【海外展開、外国人の受け入れ対応】 ☆各業界においてグローバル化が進んでいるため、外国の文化や語学に慣れるとともに、自国や自分の住む地域に対する理解を深めることにより、国際対応力を強化していくことが必要</p> <p>【異分野連携・融合】 ☆これからの時代は連携が重要になってくることから、チームで課題に取り組むカリキュラムの検討などにより、コミュニケーション能力など対人関係の形成力を高めることが必要</p> <p>【新領域進出】 ☆生産技術に加えて、付加価値の向上を図る6次産業化のように、多様な形で生産性を向上していくことが必要になってきているため、これまで取り組んでいなかったことについても、カリキュラムに加えることが必要</p>

山梨の未来を担う人材育成検討委員会における意見の整理（案）【人を集める部分】

検討委員会、ワーキンググループにおける委員意見等（○…委員意見、●…データ）			意見のまとめ
現状	評価・課題	方向性	
<p>【山梨らしさ・総合性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工業系であれば専攻科との差別化が必要 ○18歳人口減少の影響を受け、大学の統合、私学の公立化、国公私を越えた新たな高等教育の枠組み構築といった動きがある ○山梨には世界を引っ張るような、時代にマッチした企業が立地している ○景観とか農業とかいう部分が山梨らしさとして多くの学生や県民に受け入れられている <p>【高校生ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よく知らないとその学校に行って大丈夫か不安 ○親としては2年制より4年制 ○理工系は、山梨大学に入れない場合は県外の大学しか選択肢がない ○峡北地域から産業技術短期大学校は遠い ○どうせ親元を離れるなら東京という選択が多い ○専門学校には、希望する会社の就職に繋がることが最も望まれる ○甲府工業専攻科では大学編入もできるように制度設計している ○高校からは希望の就職ができるが、進学するとできない場合がある ○工業系では就職する生徒がほとんど ○電気系を希望する生徒は就職するか、大学に進学している <p>【多様な学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○機械電子業界では優秀な外国人に対する採用意欲がある ○ジュエリー業界では今後、意欲ある留学生の採用も必要性を感じている 	<p>【山梨らしさ・総合性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生まれた時からの切れ目ないトータルなシステムとして人材育成を考える中で、各機関がどんな役割を担っていくか考えることが必要 ○学校教育だけで人が育つわけではなく、教育現場と産業界とが連携する中で人は育つ ○山梨だからできる教育の打ち出しが必要 ○農業、観光は山梨らしさを活かすためには重要 ○再編すべきは再編するなど手を打つ必要がある ○より特化した人材政策が必要 ○将来の社会にマッチした形で機関の再編が必要 ○国で高等教育無償化の議論がされていることから、競争力という面で県でも検討が必要 <p>【高校生ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人材育成には入学者をどう確保するか、どういう育成をするか、就職をどう実現していくかという3つの視点が必要 ○学生と保護者の認知度の向上が必要 ○機械電子系は、高校生調査で5割以上が大学進学を希望していることを考えると、県としてより高度な技術者を養成するという方向の検討が必要 ○学ぶ側は、優秀な先生と素晴らしいカリキュラムを求める ○今の若者が何を望んでいるか知る必要がある ○人材育成の改革時には、教育の質保証と多様性の尊重の2点に力点を置いた制度設計が必要 ○学生に進学してもらうには、学校に魅力が必要 ○学校の活性化には、学生が魅力を感じることを、やりたいことが実現できることのアピールが大切 ○産短大に進学する高校生と大学に進学する高校生は学びたいところが別なので競合しない ○専門職大学ができれば、甲府工業高校専攻科に進学する高校生とは別の高校生が進学を考える ○農業大学校に進学したい高校生と農業系大学に進学したい高校生は別 <p>【多様な学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○留学生の受け入れも良い ○県外の学生を取り込む方向性を持つと良い ○学生については県外生や外国人など、様々で多様な層を考えるべき ○6次産業化に関する学びの場があれば女性活躍という部分でも効果がある 	<p>【山梨らしさ・総合性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育委員会と連携して、切れ目のない一貫した形の人材育成を検討することが必要 ○どんな仕事に就こうが農業に触れる機会が必要 ○教育プログラムとしてカリキュラムをつくと時代の変化に対応しやすい ○大学にはできないカリキュラムをつくるため、専門学校という形態を選ぶのも良い ○理系や文系の分けに囚われない、山梨の産業で共通して身につけるべき能力を、どの機関にいても学べるようにした方が良い ○アンブレラ方式（一法人複数大学方式等）とし、多様で柔軟な教育プログラムの実現、山梨県で生活する上で共通に必要なカリキュラムの設定、大社接続プランの構築というところまでできると世の中も注目する <p>【高校生ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内にもう少し、理工系の4年制大学などがあると良い ○県内進学を希望しながら県外に進学している学生の進学先を県内に増やすことについて考慮に入れるべき ○農業法人での就職に有益な施設園芸の技術修得を強化するための高度環境制御ハウスの整備や、6次産業化を見据えた食品加工、また、地域活性化を学べるカリキュラムも必要 ○6次産業化や農業分野でICTの活用を学べる学科があれば、さらに進学してみようという高校生は増える ○県内の学校を出て県内の企業へ就職する仕組みを考えてもらいたい ○自身のやる気や希望によって多様な進路が選択できるような制度設計し、実績が出れば、自ずと人が集まる ○経済的な優遇などにより、どのような人材を必要としているかメッセージを打ち出すことの検討も必要 ○学費の後払いや県内就職した者の学費免除など、経済的優遇の仕組みを考えていくことも必要 ○専門学校という形だとしても、2年学んで大学に編入できるシステムがあれば留学生は集まる <p>【多様な学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県外から入学した学生を大事にすることが必要 ○18歳をターゲットにする機関という考え方の修正が必要 ○女性の進学率を上げていくための検討も必要 ○大学に進学する女性の割合はまだ上昇するので、いかに女性を取り込むか、女性が安心して学べる施設・環境を整えるかが重要 	<p>【山梨らしさ・総合性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆人材育成は、学校等を卒業後も、継続して行っていくことが必要 ☆少子化が進む中、選ばれる人材育成機関となるためには、機械電子、観光、宝飾、農業といった本県の産業的特徴を踏まえるなど山梨らしい教育を行っていくことが必要 <p>【高校生ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆理工系を希望する高校生の5割以上が大学進学を希望しているとともに、県内に理工系の4年制進学先が増えることを期待する声も多いことを踏まえた検討が必要 <p>【多様な学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆農業大学校は、食品加工、6次産業化の授業に対応した施設整備が必要であり、これにより女子学生の割合が更に増加することが想定されるため、女性が学びやすく快適に過ごせるよう時代に即した学習環境の整備が併せて必要 ☆山梨を活性化していくという点からは、県内の高校生の進学先としてだけでなく、県外や国外からも学生を集め、県内に就職してもらうという方向性も重要であり、留学生や県外生のニーズを踏まえた教育システムについて検討していくことも必要